

2022年12月22日（木）

令和4年度 地域包括ケアシステム評価結果に係る
市町情報交換会【資料】

資料5

人が好き、
町が好き、
さあ始めよう！
地域づくり。

新たなつながりの中で、 共に見守り、支え合う暮らし ～ 被災者支援と地域づくりを一体的に ～

HIROSHIMA SAISEIKAI SAKA HOUKATSU & SASAEAI

Relwa 04

2022.12

Presenter



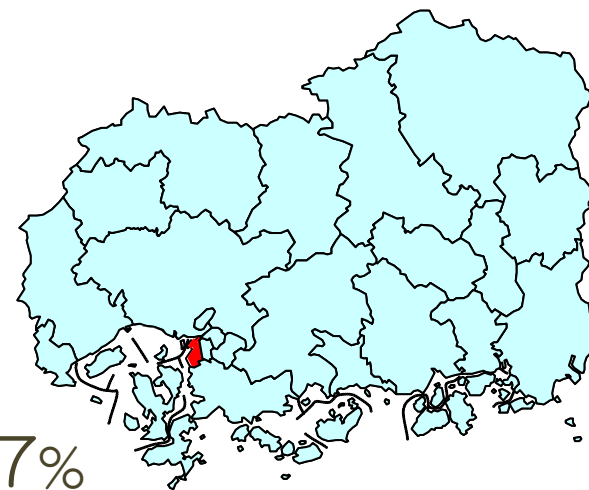
広島県済生会
坂町地域包括支援センター

係長 木下 健一

（坂町第1・2層生活支援コーディネーター）
（広島文教大学非常勤講師）



潮の香りと
緑ゆたかな坂町



R4.12.1現在

- 人口12,852人、高齢化率29.6%
- 二極化した特性。高齢化する従前の地域。駅前新興地域の高齢化率は10.7%
- 山に面した住宅が多く家まで車が入らないエリアも多い。
- 呉市、広島市に隣接。高速インター直結。
- 地域包括支援センターは1カ所。（中学校区▶1学区）



【基本情報】 ▶ ② 事例概要

坂町では平成30年7月の豪雨災害で町内の約3割に当たる、1,500世帯以上が被害を受け、家屋全壊等、様々な事由で多くの方が止む無く住み慣れた地域以外で生活再建をすることになりました。

避難所から仮設住宅…そして災害公営住宅へと、関係を築いたと思ったら転居…転居が重なり、住民同士の関係づくりにおいても疲労感が伺える状況でした。

写真にあるこの北新地地区には令和2年5月に災害公営住宅が完成し、多くの方が入居されましたが、もともと北新地地区にお住まいだった方は無く、全員がこの地域以外から入居し、互いに面識のない住民関係の中で新たな生活がスタートすることになりました。

住民関係が希薄な状態では、地域の支え合い（互助）も発動しにくく、また、平素の見守りも十分機能しない事などから、困った状態が長期間発見されない懸念がありました。

また、自治会等の立ち上げや運営のノウハウを持つ入居者もなく、急遽自己運営しなければならぬ状況の中で多くの心配がありました。住民のつながりづくりと、自治会などの組織運営、自立した住民活動を支援した取り組みを紹介します。





【担当課名】 坂町役場 保険健康課

【実施者】 坂町地域包括支援センター
(委託：社会福祉法人 恩賜財団 広島県済生会)
(包括内部局として坂町地域支え合いセンター)

- 【協力団体】
- 坂町社会福祉協議会
 - NPO法人 SKY協働センター
 - フードバンクゆるるティ
 - その他のボランティア 等

問題・課題と支援の視点

【生活再建と新たなコミュニティの形成】

01

新たな地で住民同士のつながりが希薄

災害公営住宅で住民同士をつなげる支援が必要。
住民をつなげ、お互いが支え合える地域づくりが必要。

02

自治会立ち上げが必要…運営等の経験者なく

公営住宅の入居条件に自治会の設立と加入が条件。円滑な立ち上げの準備としてつながりの意識醸成の関り。

03

具体的な活動を伴走支援…住民力高める支援

自治会設立後も伴走支援。自治会の運営を通して役員の皆さんも自信を付けていき、自立した運営につなげる支援。

04

つながりを生む『共通点』を仕掛ける

様々な行事などを通じて共通の体験を創設。
共通点を多くつくり、住民がつながるきっかけを創設。



【災害公営住宅の『入居者顔合わせ会』の実施】

建設型仮設住宅から災害公営住宅への転居が始まった時期はすでにコロナ禍。呼吸器に症状がでる未知の疾患への対応として、人との交流を減らすことが求められ、住民間にも対面を警戒する人も多数いました。

『屋外』で『短時間』の『希望者のみ』で住民顔合わせ会を実施！
集合写真を撮り、同意後、顔と名前が分かるようにして配布。

◆ 入居者の声

- ⇒ 知り合いが同じフロアに居た事にも気づかなかった！
- ⇒ 住民の皆さんのお顔が分かったので安心した。挨拶できる様になった！

◆ 取組の狙い

- ⇒ 住民交流の切っ掛けづくり
- ⇒ 自治会や組織化に向けた準備



【自治会設立に向けた勉強会で、つながる意味を学ぶ】

自治会等の組織運営等に慣れていない人も無く、立ち上げだけでなく運営そのものにも不安がありました。

まずは、なぜ住民同士のつながりが大切なのか、住民がつながっていることでどんなメリットがあるのか等、つながりを学ぶ講座を開催。



住民がつながることで小さな困り事から『大丈夫?』と互助が発動することをみんなで理解する時間になりました。（ここがポイント!!）

◆参加者の声

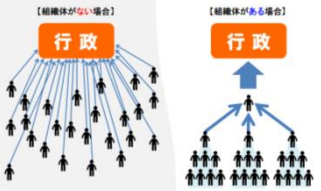
- ⇒ 自治会やPTA等、なぜ大切だったのかよく分かった
- ⇒ 入居者の声に重みと熱量などを加えるため組織が大切

◆取組の狙い

- ⇒ 住民のみなさんがつながりたいと思う意識づくり
- ⇒ 自分たちの暮らしを自分たちで描く主体性の醸成

住民組織はなぜ、必要なのか？

- 意見を集約する窓口と声へ届けることができる
 - 自律な地域生活のためのルールづくりができる
 - 困りごとに対して協力ができる
 - 災害時など有事の協働と、行政とのやり取りがスムーズになる
 - 知合いネットワークや交流が生まれるきっかけになる
- 暮らしの『質』を高めるために活用できる！



個人かみの課題なのか？ 地域課題なのか？

一つひとつの意見はとても大切なですが、行政の側で集約して全ての個人に還元し、良質な高利を付くことは現実的に難しいかもしれません。その為、住民組織で意見集約でき、住民組織の代表者が交渉することで、迅速な対応につながることも期待できます！



【自治会発足から運営を伴走…住民力向上へ】

自治会組織を立ち上げを支援しました。

具体的には、規約の作成支援や役割分担、意思決定のプロセスや会費、予算執行の方法等、具体的な内容もありました。

少しずつ体験されることで役員などの経験がなかった方でも少しずつ自信を付けられ、今では完全に自立した運営に至っています。具体的な行事の他、地域課題（入居者の困り事）等にも会として取り組まれる場面も今では日常になりました。



◆ 組織化…その先の展開

⇒組織化し、活動するチカラやつながりが生まれてくること『何か活動をしたい』という機運が強くなってきました。

そのタイミングで他の地域でも実施している介護予防やフレイル予防、百歳体操の勉強会を実施しました！



【百歳体操の勉強会】R2.11.10

令和3年7月15日発会！現在毎週2回(火曜日・木曜日)10:30～11:00



災害公営住宅以外からも参加者を受入、地域一帯の交流の起点になっています！

⇒いつも来る人が今日は来ない...心配になり連絡して様子確認！見守りが発動！

⇒集う場があるから来ていない(参加しない)人が分る。その人たちは見守りしようという意識になっています。※見守りの対象者が見える化されます。

【つながりを生む『共通点』を仕掛ける】

つながりの無かった地域の方々に『共通の体験』をする機会をつくることで連帯感の醸成や共通の話題によるコミュニケーションの促進が期待できます。それらの狙いから様々な団体と連益しながら下記の様な取り組みを実施しました。（コロナ禍で難しいからこそ重要だと感じます）



東京オリンピック聖火
リレートーチの見学会



交流を兼ねた草取り会
近隣の施設等にも声掛け

地域とつながり、地域をつなげる！

他にもNPO等による交流イベントの実施！





- **自治会づくりの前段階として、しっかりとつながる重要性を共有することが鍵！**
- **出来る事まで奪わない！力を育む！**
- **共通点を創設！つながるきっかけづくりを！**
- **やりたいことを把握！後は全力応援！**
- **役割ある生活で充実感を感じてもらおう支援！**
- **つかずはなれずの距離感で継続支援！**